

第23回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業 心のバリアフリー「縦の糸・横の糸」絆プロジェクト

八尾スローアートショー実行委員会

1. 実施概要

(1) 目的

将来に渡って持続可能な八尾・山田地域を創造するために取組んできた事業を「縦の糸」に、障がい者の自立支援を「横の糸」にして織り上げるソーシャルデザインの地域づくりを基本理念に掲げて設立する特定非営利活動法人「富山ユニバーサルツーリズムセンター」が行う「心のバリアフリー」に特化した「地域の誇りとバリア」を残したバリアフリースター及び養蚕等の地域文化を活かした八尾ブランドの開発等の観光地活性化事業の創出を目的とする。

(2) 事業の背景・必要性

バリアフリー観光を推進する先進県においては、行政機関等が連携・支援するNPO法人等によりユニバーサルツーリズムセンター又はバリアフリースターセンターが設立されているが、立ち遅れた富山県においては、未だ設立されていない現状にあることから、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催時に有効に機能できる「富山ユニバーサルツーリズムセンター」の設立が急務となっていた。

富山県域でユニバーサルな旅の環境を創り出すことを目的とする特定非営利活動法人「富山ユニバーサルツーリズムセンター」を運営するためには、全国的に知名度のある「おわら風の盆」及び国宝「瑞龍寺」等を入口とした将来に渡って持続可能な「心のバリアフリー」に特化した観光地活性化事業の創出が必要である。

(3) 事業内容

平成29年11月30日に開催された北陸地域づくり協会の「地域づくりセミナー」に参加することで得た指導助言に基づき、これまでの活動趣旨や社会的な意義と役割をより明確にし、その活動の持続性を確立するため「富山県バリアフリー観光推進協議会」の組織体制の確立後としていた平成31年度の設定予定を前倒しして、平成30年5月に特定非営利活動法人「富山ユニバーサルツーリズムセンター」を急ぎ設立することとした。

法人を基本理念どおりに運営するためには、「問題を解決するための課題」を設定し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催時には、政府や行政側からの要請を受けて協働して機能できる推進体制及び北陸地域におけるネットワークを2019年度末までに構築したうえで、全国的に知名度のある「おわら風の盆」及び国宝「瑞龍寺」等を入口とした将来に渡って持続可能な「心のバリアフリー」に特化した観光地活性化事業の創出に係る研究助成事業を行うこととした。

① 心のバリアフリー調査研修事業（研修会場：八尾・山田地域の宿泊施設等）

② 観光地活性化モニターツアー調査研究事業（高岡市・富山市）

③ 八尾ブランド創出事業（天蚕「縦の糸・横の糸」絆ツーリズム）

- ・誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるネットワークの構築に関する調査。
- ・国宝「瑞龍寺」及び高岡市伏木から射水市の「水辺のまち内川」等における地域の誇りとバリアを残したバリアフリーツアーの推進に関する調査。
- ・旧八尾町の繁栄の基盤をつくった養蚕技術を伝承する「富山県がうん天蚕の会」の社会的活動を地域の宝として研鑽いただき、活動の持続性を確立するため、諸外国の富裕層にも好まれる八尾ブランドの開発等の調査。

2. 実施報告

(1) 心のバリアフリー調査研修事業

☆八尾町：越中八尾ベース「おやつ」（旧数納邸）及び旧益山酒造の活用調査。

7月7日（土） OYATSU de LIVE 「Vol.4 セタライブ」

越中八尾ベース「おやつ」 代表取締役社長 原井紗友里氏

10月8日（月）旧益山酒造（坂のまちアート会場）：京都美術工芸大学 山口尚之氏

☆山田村：牛岳の可能性及び越中山田温泉「玄猿楼」調査

7月21日（土） 牛岳「夜空の音楽祭」主催：富山市八尾山田商工会

越中山田温泉「玄猿楼」代表取締役 上田健一氏

10月7日（日） 越中山田温泉「玄猿楼」UT調査：

京都美術工芸大学 山口尚之氏

☆指導者：富山福祉短期大学学長 炭谷靖子氏

〃 共創センター長 社会福祉学科教授 藤本幸男氏

☆日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク会議について研修 11/16（金）

金沢市：NPO 法人石川バリアフリーツアーセンター／坂井さゆり氏

沖縄市：NPO 法人バリアフリーネットワーク会議／親川 修氏

北海道：旭川市のカムイ大雪バリアフリーツアーセンター／只石幸男氏

神奈川：NPO 法人湘南バリアフリーツアーセンター／榎原正博氏

(2) 観光地活性化モニターツアー調査研究事業

☆歩む会～Andante～主催のごちゃませ交流事業におけるモニタリング調査。

障がい者と健常者の交流の場、脳性まひ・身体障がいを持つ当事者や家族同士の交流スペース 代表：坪田佳奈氏（社会福祉士）

☆第24回日本野蚕学会にてプロジェクトの発表(長野県) 9/28 (金)

☆ブランドデザイン

福井県：東野東吉織物（福井羽二重織）にて天蚕羽二重織りの試作

福井県：くらしつむぐあとリエ嘉村亜紀子氏との福井県産繭「玉小石」を使った座繰り製糸、
手織りの試作

富山市：森井奈津子氏との天蚕真綿手つむぎ、手織の試作

富山市：八尾町鏡町在住の洋服仕立て業の井山律子氏の縫製による試作

富山市：キルトギャラリー草蓮坂山荘の坂上政子氏の縫製による試作



<今後の課題>

- ・糸のつくり手、織のつくり手、製品のつくり手、売り手（北陸の日本美の連携）。
- ・天蚕そのものの使い心地、おくるみが相応しいのか。本当に相応しいものは何か。
- ・いずれにしても価格が高額となる。より安価な日本正絹が京都でさえ需要がない。
- ・売れるパッケージ等の販売方法、買ってもらえる品質の保証。
- ・ハイアット セントリック金沢のテナント料。おそらく高額で商品量が不足。
- ・商品開発や販売に力を注ぐと天蚕の世話がよろそかになり、生産量が落ちる。
- ・担い手の確保（会員の増員）。

(4) 実行委員会

- ・第1回 (4/18) ・第2回 (5/29) ・第3回 (6/20) ・第4回 (7/25)
- ・第5回 (9/19) ・第6回 (11/14) ・第7回 (12/19) ・第8回 (2/20)



縦の糸も横の糸も太く強靱でないと富山ユニバーサルツーリズムセンターを運営することは困難（無理）である。

富山ユニバーサルツーリズムセンターを運営（サービスの提供）するには、強靱な連携が必要となる。空港も鉄道駅も観光地も完全なるバリアフリー化はできない。

だから心のバリアフリー。誰もが安心して安全に暮らすことができる場所、誇りある地域づくりが必要である。

伝統文化を守り繋ぐ伝福連携を創出するユニバーサルツーリズムの推進を目標とする。

3. 成果の活用及び本事業の継続の方策

八尾スローアートショー実行委員会では、これまでの助成事業の成果により、富山ユニバーサルツーリズムセンターを設立したことから、2020年度以降に予測されるオーバーツーリズム対策や2025年に開催される万国博覧会までの間における行政と協働する地域づくりに関する「問題を解決するための課題」を設定し、更なる八尾ブランドの開発・販売戦略等を整えながら、愛和報恩会で研修するネパール人技能実習生等の研修科目や働き方に取り入れ、共に働く利用者自らがネパールを訪問するユニバーサルツーリズムの実現を図ります。

また、富山ユニバーサルツーリズムセンターの次世代役員を確保するためにも必要な人財の発掘・育成に努め、古民家や空き店舗を活用した多文化共生とインバウンド事業を推進する八尾スローアートショーの再開やコミュニティカフェ・高齢者サロンの設置を推進いたします。

それらの資金計画については、富山ユニバーサルツーリズムセンターの観光地活性化事業及び社会福祉法人恵風会の社会福祉充実計画事業の受託費及び2019年度から2020年度までの八尾ゆめの森交流促進施設における都市農村交流事業等の受託費を事業継続の資金とする計画であり、2021年度以降においても同様に資金確保できる見込みとしています。

第24回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業においても、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるネットワークの構築に関する調査及び国宝「瑞龍寺」及び高岡市伏木から射水市の「水辺のまち内川」等における地域の誇りとバリアを残したバリアフリーツアーの推進に関する調査を継続して実施し、ライトレールや万葉線等の鉄軌道を活用した富山県域における観光地活性化事業の創出について新たな調査研究に着手することとしており、これまでの成果により構築した（一社）富山県ノルディックウォーク協会及び富山福祉短期大学等との連携に加え、障がい者の自立支援の方策を創出するために加盟を予定する日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク会議等との新たな連携を図ることで、更に専門性を深め、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの訪日者等に対応できる北陸地域におけるユニバーサルツーリズムの受入体制の構築について調査研究を行います。八尾ブランド創出事業については、2020年に金沢市に開業する「ハイアットセントリック 金沢」における観光客（海外富裕層）向けに販売できる北陸ブランド（日本ブランド）の天蚕製品や絹製品を創り出し、売り出すための調査研究事業を実施することとします。

障害者支援施設等で働く支援員等の社会的な活動によって貴重で、希少な天蚕の糸で富

裕層に好まれる八尾ブランドを開発し、障がい者の自立支援事業を行う特定非営利活動法人「愛和報恩会」が八尾和紙の伝承のために栽培する楮で漉いた和紙で包装紙や箱をデザインして付加価値を高めて販売することで、八尾文化の礎とされる養蚕技術を伝承する「富山県がうん天蚕の会」の社会的活動を持続させるとともに天蚕の飼育等の地域の誇りを子ども達に伝えるスローアートツーリズムが創造できると考えております。

富山ユニバーサルツーリズムセンターの2020年からの本格的な事業開始と基盤確立を促し、「心のバリアフリー」に特化した観光地活性化事業を創出し、日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク会議等の情報発信力を活用することで、「おわら風の盆」以外の日においてでも富山県内及び近県の北陸地域の各観光地の活性化に貢献することができると考えます。杖や車いす利用者、小さな子供連れの方、視覚・聴覚等の様々な障がいや日常生活に様々な制限をお持ちの方々が住み慣れた地域を誇りに思い、安心・安全に生き生きと暮らせる地域包括ケアシステムの構築やユニバーサルデザイン2020行動計画の推進に貢献できると考えます。